令和6年度 第4回定例記者会見（説明内容）

【市議会定例会日程】〔資料1ページ〕

3月議会定例会は、会期を2月25日から3月21日までの25日間の予定で開催いたします。

【定例会提案議案】〔資料2～4ページ〕

本定例会に提出する案件は、令和7年度当初予算案件が11件、補正予算案件が3件、条例案件が16件など計56件であります。また、専決処分の報告案件が、1件であります。

【令和7年度当初予算（案）の概要】

香取市を取り巻く状況は、人口減少、少子高齢化が進行する中、物価高騰や労務単価の上昇など厳しい状況にあると認識したうえで、令和7年度当初予算の編成に当たっては、必要な事業の継続、住民福祉の向上等に留意し、香取市の将来を見据え、優先度に応じた財源の配分に努めました。

〔資料5ページ〕

令和7年度一般会計予算の総額は、382億4,000万円で、前年度に比べ、16億8,000万円、4.6%の増となっています。これは、物価高騰への対応はもとより、児童手当の拡充などに伴う民生費、児童、生徒が利用するタブレット端末の更新などに伴う教育費、千葉県人事委員会勧告等に伴う人件費などの増加によるものです。

特別会計6会計の合計額は、197億8,600万円で、前年度に比べ5,990万円、0.3%の増となっています。

公営企業会計4会計の収益的支出及び資本的支出の合計額は、99億8,116万8千円で、水道事業及び公共下水道事業の影響により、前年度に比べ11億1,736万5千円、12.6%の増となっています。

全会計の総額は、680億716万8千円で、前年度に比べ28億5,726万5千円、4.4%の増となっています。

〔資料6ページ〕

(2)(3)と当初予算規模、そして一般財源の推移を、それぞれ掲載しております。のちほど、ご確認いただければと思います。

特筆すべき事項としましては、一般会計、公営企業まで含む全会計の規模は、ともに過去最大であります。

○基金の状況

(4)基金の状況につきましては、財政調整基金繰入金を16億3,000万円計上してい

るほか、各事業の財源として、適宜、関係する特定目的基金からの繰入金を計上しており、令和7年度末基金残高の総額を、約154億4,400万円、うち財政調整基金は、約49億5,200万円と見込んでおります。

〔資料7 ページ〕

○市債残高の状況

(5) 市債残高の推移となります。一般会計では令和7年度末市債残高の見込額を約363億5,500万円と見込み、前年度に比べ約15億5,000万円減少し、全会計の合計は、約582億7,400万円を見込んでおります。

○特別会計等への負担の状況

(6) 特別会計等に対する一般会計からの繰出金等の状況であります。

観光事業につきましては、現在の水郷佐原あやめパークが指定管理者において運営と経理が実施され、その運営方法が確立されたことなどから令和6年度限りで特別会計を廃止としております。

〔資料8 ページ〕

【一般会計予算案の概要】

(1) 歳入については、多い順に、11款 地方交付税、1款 市税、15款 国庫支出金となります。

前年度との比較では、15款 国庫支出金は、児童手当費負担金などの民生費国庫負担金や新しい地方経済・生活環境創生交付金などにより増加し、1款 市税は、令和6年度に実施した定額減税が終了することなどにより増加、19款 繰入金は、財政調整基金やふるさと香取応援基金繰入金の増額などにより増加しました。22款 市債は、防災行政無線更新事業債などの減少によるものです。

〔資料9 ページ〕

(2) 歳出については、多い順に、3款 民生費、2款 総務費、11款 公債費となります。

前年度との比較では、10款 教育費で、小中学校のタブレット端末を更新する経費や各施設の改修工事などにより、3款 民生費で、高校生世代まで拡大された児童手当の増額などにより、2款 総務費で、好調なふるさと香取応援寄附金に係る事業費の増額などによりそれぞれ増加し、9款 消防費で、防災行政無線更新事業の完了により減少しております。

〔資料10～13ページ〕

【一般会計予算案における主要事業】

一般会計予算（案）の歳出における主要事業として、10ページから13ページにかけて43事業を列挙しておりますが、ここでは新規や拡充したものを中心に、ご説明いたします。

1. 「シティプロモーション事業」

活力と魅力ある地域づくりに寄与する、イタリア発祥のまちづくり活動「スローシティ」を推進する委託料などの経費や、地域おこし協力隊に要する経費を計上しました。

3. 「ふるさと香取応援寄附金事業」

「ふるさと香取応援寄附金事業」は、ふるさと納税の申し込みが好調なため、寄附金の当該基金への積立額として、前年度より1億5千万円多い、7億5千万円を計上しました。

6. 「自家用有償旅客運送事業」

令和6年10月により、開始したデマンド交通「かとくる」運行业務委託料を通年ベースで計上しました。

7. 「交通安全啓発事業」

自転車利用者のヘルメット着用の促進を図るため、新たに自転車用ヘルメット購入補助金を計上しました。

8. 「情報管理一般事務費」

新たに自治体情報システム標準化・共通化に係る経費やガバメントクラウド利用料を計上したほか、窓口業務の負担軽減、利用者の利便性向上を図る目的で証明書交付サービス端末を導入する経費などを計上しました。

9. 「情報化推進費」

テレビの共同アンテナを利用している地区に対し、老朽化による撤去費用を補助するため、新たにテレビ共同受信施設撤去等補助金を計上しました。

10. 「合併20周年記念事業」

香取市誕生20周年を迎えるにあたりプロモーションムービー制作や市勢要覧作成委託料等を計上しました。

11. 「障害者社会参加促進事業」

障害者通所施設就労継続支援B型の利用者へ、新たに交通費を助成する費用を計上しました。

13. 「こども家庭センター運営事業」

妊産婦に対する支援の充実を図るため、不妊治療費、不育症治療への助成をはじめ、産後ケア事業を実施しています。また、生後1か月児検診の促進及び経済的負担軽減を図るため、新たに助成を行う経費を計上しました。

16. 「放課後児童クラブ施設整備事業」

民間が取り組む放課後児童クラブの増設に伴う施設改修補助を計上しました。

17. 「保健衛生総務一般事務費」

がん治療を継続しながら社会参加等するための経済的、精神的な負担軽減支援策として、新たにウィッグ等の購入補助金を計上しました。

18. 「医療関係従事者育成・定住事業」

看護師などの医療関係従事者を育成し、市内での就業及び定住の促進を図ることを目的とし、新たに就学資金の貸し付けを行う経費を計上しました。

なお、当該貸付金は、卒業後、市内において看護師などの職に従事し、居住した場合、償還を免除いたします。

19. 「予防接種事業」

定期接種化された帯状疱疹予防接種の助成額について、令和6年度の助成額を増額して対応するものです。なお財源としては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用しております。

20. 「生活環境整備事業」

温室効果ガスの排出量の削減を図り、脱炭素社会の実現に向け、令和6年度に引き続き、冷蔵庫・エアコン・テレビの、省エネ家電製品買い替えを促進するための補助金を計上しました。

21. 「米政策改革事業」

物価高騰の影響を受けている生産農家と酪農農家の耕種連携を図るため、自給力向上団地化のWCS（ホール・クロップ・サイレージ）の奨励金の単価を引き上げました。また、飼料用米出荷奨励金についても同様に単価の引き上げを行いました。

24. 「紅小町の郷管理運営費」

道の駅くりもと紅小町の郷を中心とした交流促進のための調査検討経費を計上しました。

25. 「商業活性化支援事業」

令和6年度に香取市で開催した全国発酵サミットを契機として、発酵に関する取り組みを加速させるため、PR経費や人材育成補助金等を計上しました。

26. 「貨物運送事業者等燃料費高騰対策支援事業」

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、燃料費高騰の影響を受けた貨物自動車運送事業者等の経済的負担の軽減を図るため、燃料費高騰対策支援金を計上しました。

28. 「水の郷さわら管理運営費」

平成22年オープンから15年が経過する「道の駅水の郷さわら」の施設再整備工事や施設の維持管理運営に関するモニタリング調査業務などを計上しました。

31. 「都市計画総務一般事務費」

令和9年度末の改定を目指している都市計画マスタープランの見直しに係る経費を計上しました。

32. 「公園施設維持管理・整備事業」

香取市公園施設長寿命化計画に基づく公園遊具の更新及びわんぱく公園の再整備に係る実施設計業務委託料等を計上しました。

33. 「街なみ環境整備事業」

景観形成地区内における良好な景観と住環境の向上を図るため、老朽化した照明を更新する経費を計上しました。

35. 「地域防災対策事業」

山田及び栗源B & G海洋センターにおける、避難所開設時の環境改善を図るため、スポットクーラーを設置する経費を計上しました。

36. 「教育支援センター運営費」

不登校児童生徒の主体性を尊重し、多様な学習の機会を確保するため、新たに教育支援センター「ふれあいステーション佐原」開設に係る経費を計上しました。

37. 「小学校・中学校タブレット端末購入経費」

児童・生徒が利用しているタブレット端末の更新に係る経費を計上しました。購入は、千葉県と共同調達での実施を予定しています。

38. 「中学校総務管理費」

近年の猛暑により屋内運動場での授業や部活動に支障が出ている状況から、市内の全中学校屋内運動場に空調設備を設置する経費を計上しました。

39. 「佐原中学校校舎長寿命化改修事業」

老朽化している校舎の改修等を検討するため、耐力度調査業務を計上しました。

40. 「文化会館設備改修事業」

佐原文化会館の経年劣化に伴う音響、照明等の設備改修工事などの所要額を計上しました。なお、照明改修工事については、令和8年度までの継続事業になります。

41. 「体育施設管理運営費」

山田B & G海洋センター施設照明のLED化改修工事など所要額を計上しました。

42. 「体育館管理運営費」

避難所としても指定されている市民体育館において、利便性の向上を図るため、アリーナ及び武道場に空調設備を設置する経費を計上しました。

43. 「学校給食費免除」

少子化対策として子育て世帯の負担軽減を図る観点から、小学校1年生から5年生を給食費免除の対象に加え、全学年を対象とした給食費無償化を実施いたします。なお、拡大する経費には、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用します。

〔資料14ページ〕

【3月補正予算案の概要】 ※議案書1～58ページに記載

一般会計補正予算（第6号）は、5億814万8千円を減額し、補正後の総額を、396億483万7千円とするものです。

このほか、国民健康保険事業特別会計、公営企業会計の水道事業で補正予算を提案しております。

○一般会計における債務負担行為の補正

庁舎一般廃棄物収集運搬業務委託など10事項について、令和7年度予算の執行にあたり、年度当初から、円滑に業務を開始するため、設定するものです。また、デマンド交通運行業務委託の廃止も合わせて行っております。

〔資料15ページ〕

【3月補正予算案における主要事業】

9つの事業を列挙しておりますが、新規や拡充したものなどを中心に説明いたします。

1. 「総務一般事務費」

窓口サービスの向上を図るため、軟骨伝導イヤホンの購入に係る経費10万円を計上しました。

2. 「公共施設整備基金積立」

今年度の決算見込みを踏まえ、次年度以降の公共施設の整備等の財源に充てるため、公共施設整備基金への積立金5億円を計上しました。

3. 「ふるさと香取応援寄附金事業」

ふるさと納税に係る寄附の受入が好調なため、返礼品に要する経費や基金への積立金など、3億710万7千円を追加しました。

4. 「保育運営委託事業」

決算見込みに合わせ各事業補助金を減額したほか、公定価格の改定に伴い、保育運営委託料に1億606万8千円を追加しました。

7. 「地域防災対策事業」

国の補正予算において創設された新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用し、防災倉庫内の備蓄品管理業務委託及び避難所用の備品購入に係る経費847万8千円を計上しました。

〔資料16ページ〕

【12月定例会以降に専決処分した補正予算】

1月27日付けで専決処分した一般会計補正予算（第5号）は、物価高騰対策給付金の支給に係る予算であり、2億8,074万5千円を計上しました。

【予算案件以外の主な議案】

〔議案書61～76ページ、議案参考資料2ページ～26ページ〕

議案第16号の「香取市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について」の案件は、千葉県人事委員会勧告等に準じ、一般職の給料表を改定するとともに、地域手当を段階的に支給するほか、諸手当の支給要件等を見直すなど、所要の改正を行うものであります。

〔議案書89～90ページ、議案参考資料46ページ〕

議案第21号の「香取市学校給食センター設置条例の一部を改正する条例の制定について」の案件は、第二調理場について、施設の老朽化及び児童生徒数の減少などの状況を踏まえ廃止し、第一調理場に統合するため、所要の改正を行うものであります。

〔議案書91～93ページ、議案参考資料47～52ページ〕

議案第22号の「香取市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について」の案件は、国民健康保険財政の健全化を図り、安定的な事業運営を行うため、税率等を見直すとともに、子育て世帯における負担軽減措置を拡大することについて、所要の改正を行うものであります。

〔議案書129ページ～147ページ〕

議案第32号の「新市建設計画の変更について」の案件は、東日本大震災等に伴う合併市町村に係る地方債の特例に関する法律の一部が改正され、合併特例債を起債することができる期間が延長されたこと及び公共施設等総合管理計画との関係を明記し、合併特例債の更なる有効活用を図るため、新市建設計画の一部を変更するものであります。

【担当課説明】

- ・慶應義塾大学SFC のスローシティ研究成果発表会開催（秘書広報課）
- ・主な行事予定（秘書広報課）

【その他】

香取の逸品「いちご大福」「芋ようかん」

いちご大福

発売当初は茨城県産のいちごを使用していたが、17年ほど前より地元の香取市産、しかも店舗の近所で栽培されたいちごを使い続けている。信頼できるいちご農家さんがいるからこそできる商品。

旬のいちごを詰め込んだ大福は、12月から5月の初めころまでの期間しか手に入れ

られないので、その時期を大人も子供も心待ちにしている。

人 松澤 富美夫

明治から続く老舗和菓子店の4代目。「サラリーマンにはならないと思っていた」と語る松澤さんは、菓子専門学校、都内での修行後に帰郷し、菓子を作るようになって今に至るまで40年が経つ。

千葉県技能士会連合会主催の技能祭で、知事賞を獲得するほか多くの受賞歴を持つ。

作りたいものを作る

溢れ出す発想をいかに具現化するか、それには時間が足りていない。頭の中にアイデアはたくさんあるのに、日々商品を手作りしているため、なかなか手が回らないでいる。

しかしそんな中でも、自分の作りたいものを作れている実感はある。これからも時間の許す限り試作を重ね、一つ一つの考えを作り上げていく。

機械にまねできない、手作りのもの

いちごとの相性を考え、当時はあまりなかった白あん×いちごの組み合わせを採用。白あんといちごを最後まで一緒に食べられるよう、いちごに薄く均一にあんを纏っている。

いちごの他に、ナガノパープル、パイナップル、みかん、メロンのフルーツ大福があるが、具材との相性によって、白あんに果汁を練りこむことで味の調和を生んでいる。